

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「知るや?井月さん」南信州プロジェクトー漂泊俳人井月の下伊那巡りー	
事業主体 (連絡先)	高森文化ユニット内 井上井月顕彰会下伊那支部 高森町下市田 2528-2	
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業	
事業タイプ	ソフト	
総事業費	1,390,770	円 (うち支援金: 1,005,000 円)

事業内容

今迄上伊那一辺倒であった漂泊俳人井上井月、生誕2百年に合わせて、下伊那初のシンポジウムを開催した。同時に、俳句吟行・句碑巡りツアーも実施。また、高森町歴史民俗資料館(時の駅)で3ヶ月にわたり、下伊那に残る井月遺墨・真筆の展覧会を開き、書としての評価俳句の解説解説も表示し、下伊那に来た井月を認識してもらうことができた。井月と下伊那の関係性をビジュアルに編集した「南信州に行く・井上井月」の刊行も実施して、「書を持って散策しよう」の冊子お披露目会を、高森町歴史民俗資料館で開催した。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①ビジュアルなページ展開が功を奏し、下伊那での井月の動きが理解され、好評である。

②下伊那初のシンポジウムで、下伊那に関わる講師陣で下伊那の魅力に繋げる内容の濃い催しとなり、参加者の高い評価をいただいた。惜しむらくは、コロナの影響もあり、目標の参加数70人に10人ほど少なかったが、密にならず参加者は安心して聞き入ることができたようである。

③一日の開催であったが、参加者は好企画の評価も高く、今後継続の見通しもできた。

④活動の中心的存在であった本島恭則氏の思わぬ逝去で、展覧会が追悼を兼ねたものとなったが、入場者も300人を超え井月への書の観点が高くなった。ただ、骨董業界の品価格が高くなることとなり、これからの真筆探しに散謁の心配も生じて来た。全体には、下伊那での井月への認識の高まりに、予想以上の手ごたえがあった。下伊那の魅力作りに貢献できそうである。

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

井月の真筆もさることながら、井月句碑の建立によって、既存の文学碑の見直しなど、観光として呼びこめる目で見ることができる、実際のな事物を活用する段階に進むことができる環境となった。温泉観光ではない、伊那谷・南信州らしい観光事業の展開に着手する時が来た。今まで町長だけの高森町観光協会の名であったがテコ入れが決定し新年度、観光産業としても連携、協力をすることになった。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(活動写真)



【吟行ツアー句碑巡り】

【目標・ねらい】

- ①冊子の刊行
- ②シンポジウムの開催
- ③吟行句碑巡りツアー
- ④真筆展下伊那の開催

※自己評価 【A】

【理由】

下伊那の魅力と成り得る井月の立ち位置が見据えられる感触ができ、関係人口(ファンづくり)の増加に繋げる目途がたった。